

モノグラフ

中学生の世界

vol. **35**

## 中学生と性

### 目次

本報告書の要約 .....	2
第I章 性の悩みと環境 .....	5
1. サンプルの基本的属性 .....	6
2. 性の悩み .....	10
3. 性情報との接触 .....	16
第II章 中学生の異性体験 .....	
1. 両思いの交際 .....	23
2. 片思いの胸の中 .....	36
3. 異性との出会いへの期待 .....	41
第III章 中学生の性意識 .....	45
1. 恋愛の是非 .....	46
2. 高校生の売春について .....	49
3. 性行動への許容性 .....	51
第IV章 母親の望む性教育 .....	
1. 学校側に望むこと .....	67
2. 相談相手にされない親 .....	70
資料1 調査票見本(中学生) .....	74
資料2 基礎集計表(中学生) .....	91
資料3 調査票見本および集計表(母親) .....	104

※おことわり：本文中に使用した写真は、本文・テーマとはいっさい関係ありません。

# 本報告書の要約

\*

東京学芸大学教授  
埼玉県立小川高校教諭

深谷和子  
三枝恵子

## ① 調査の目的

身体的な発達加速と性情報の氾濫、価値の多様化などの社会的条件下にある中学生が、性に対しどのような意識や態度をもち、どのような対異性行動をとっているかを明らかにすること。それによって今後、増加が予想される青少年の性問題への対応に関する基礎資料を得ること。(なお、これに関連した高校生基礎資料については、『モノグラフ・高校生'89』vol.26“高校生と性”を参照されたい。)

## ② 対象と方法

東京、埼玉、千葉の中学2年生・3年生、計2,338名と中学生との比較のため、中学生を持つ母親387名、合計2,725名。調査方法は学校通しのアンケート調査を実施した。調査時期は1989年9月から12月にかけて。調査票は男子用、女子用に分け作成した。

## ③ 初潮を経験する時期

小学校6年生で52%、中学1年生で84%の女子が初潮を体験している(P.9図I-3)。小学校4年生までにすでに2%の子が初

潮を迎えており、身体的発達の加速化現象がうかがえる。初潮を体験する時期は、小学生(19%)、中学生(22%)とも8月に多い。次いで小学生は12月、1月に、中学生は4月が多い(P.10表I-5)。

## ④ 性に関する悩み

女子にとっては生理に関する悩みが多く、生理痛、気分のゆううつ、体育の授業などに不快な思いをしている子が約6割いる(P.11図I-5)。男子ではキスしてみたいなどの生理的欲求の悩みを持つ子が3割ほどみられる(P.13図I-6)。

## ⑤ 悩みの相談相手

性に関する体の悩みも、異性とのつきあいの悩みも相談相手は「同級生」が圧倒的に多い(P.14表I-6)。しかし「誰にも相談しない」とする者は「体の悩み」で男女とも3割にも達している。

## ⑥ 性情報との接触

男子では『少年ジャンプ』が87%読まれて

いるが、性的な刺激の強い「ポルノ写真雑誌」を見ている者も多くでてきている。女子では、『明星』57%、『りぼん』51%、『セブンティーン』50%と読んでいる雑誌の種類も豊富であり、内容は性的な情報もかなり含んでいるようでもある（P.17 図I-7）。

#### ⑦ 性情報や性的刺激への接触

男子に比べ女子のほうが雑誌や友だちの会話の中から性情報を受ける割合が高い。女子は「初恋」「異性の好むタイプ」など異性との交際における性情報を、男子は「ポルノマンガ」「セックスの体験談」などの性的刺激を求めている（P.19 図I-8、9、10）。

#### ⑧ つきあっている相手

現在つきあっている相手のいる者は、男女とも約10%である（P.24 図II-1）。また成績との関連では、上位者と下位者に多い（P.25 表II-1）。相手は同級生が6割を超えているが、女子では先輩が2割いる（P.26 表II-3）。

#### ⑨ 相手に対する気持ち

相手のいる者で「恋人に近い気持ちでつきあっている」が約7割である（P.27 図II-2）。女子では学年が上がるにしたがい「恋人として」「結婚できれば」とする者が多くなっている（P.28 表II-4）。

#### ⑩ つきあっていることを母親はどう思っているか

つきあっていることを母親が知っていると思っている中学生は男子62%、女子63%（P.29 図II-3）。しかし、自分の子どもが異性とつきあっていると思っている母親は2%に過ぎない（P.29 図II-4）。異性との交際を母親が喜んでいると思っている男子は38%、

女子は19%であるが、母親はゼロである。母子の意識のズレがうかがえる（P.30 図II-5）。

#### ⑪ 交際している異性との接触体験

男女ともプラトニックなつきあいが中心であるが、「手をつないで歩く」（男子44%、女子39%）、「その子の家に行って2人きりでおしゃべりをする」（男子36%、女子39%）、「キスをする」（男子44%、女子28%）などと、より深い性行動へ発展する可能性のある数値も決して低くない（P.31 図II-6）。また、交際している異性との接触体験と成績の関わりでは、成績の上位者が男女とも積極的である（P.34 表II-6）。

#### ⑫ 片思いの相手

片思いをしている男子は36%、女子は58%である（P.36 図II-8）。片思いの相手は、男女とも「同級生」が圧倒的に多い（P.38 表II-10）。相手につきあってほしいと申し込むつもり男子は50%、女子は28%と、やや男子のほうが積極的である（P.39 図II-10）。

#### ⑬ 異性との交際への期待

近いうちに相手がほしいと思っている男子は34%、女子は42%である（P.41 図II-12）。つきあう相手のほしい時期は男女とも16歳、17歳で約6割である。中学生にとって異性とのつきあいは高校生でと認識しているようである（P.42 表II-13）。

#### ⑭ 恋愛と学業

「中学生どうしのつきあいは勉強の妨げになる」と思う者は、「女子が異性とつきあう場合」は男子で68%、女子で50%、「男子が異性とつきあう場合」は男子で62%、女子で46%となっている。高校生の数値とも同じ傾向だが、高校生より中学生の男子のほうがより

「男女交際の勉強への悪影響」を心配している (P.46 図III-1)。

#### ⑮ 中学生と売春

「売春している高校生」について「絶対いけない」とする者は男子51%、女子で61%であるが、「その人の自由」と答えた男子も49%、女子で39%もいる。売春への嫌悪感の低いことが気かりである (P.49 図III-3)。また、つきあっている相手がいる者はいない者より、売春は「その人の自由である」とする者が多く、男子69%、女子56% (P.50 図III-5)。

#### ⑯ レディネスは十分

「恋人からセックスを求められた高校生」に対する意見では、「応じてよい・関係がこわれそうならしかたがない」を合わせると男女とも5割強。「好きな人からキスを求められた中学生」に対しての意見では、男女とも8割は応じる。また、「ナンパされた中学生」に対しての意見では、「電話番号くらいなら」「お茶くらいなら」と考える者が男女とも3割にも達する。性に関する規範感覚は、かつてと大きく変化している (P.51 図III-6、7、8)。

#### ⑰ 結婚前の何人かの異性とのつきあい

結婚するまでに、1対1でつきあった経験をもったほうがよいと考える男子は約7割強、女子は9割である (P.54 図III-9)。

#### ⑱ 異性が1人で家に遊びにきたとき

異性が1人で家に遊びにきたとき、「自分の部屋で2人きりでおしゃべりする」ことを母親が許容してくれると思っている男子は45%、女子は36%。一方、母親は8%に過ぎない (P.56 図III-10)。成績との関連では、成績のよい男子のほうが母親の許容性が大きい

(P.56 表III-6)。

#### ⑲ 中学生の男女交際

誕生日のプレゼントや手紙、日記の交換、電話での話などは「かまわない」割合が高い。しかし「キスをする」男子47%、女子40%、「その子の家に行って、その子の部屋で2人きりで話す」は男子38%、女子27%、「手をつないで歩く」は男子23%、女子11%の者が、「かなりいきすぎ・絶対すべきでない」と考えているようである (P.60 図III-12)。母親に比べると生徒たちは、交際の許容性の幅をかなり大きいものと判断している (P.65 図III-15)。

#### ⑳ 母親の望む性教育

母親は学校で「体(性器官)の構造」「妊娠・出産のしくみ」「男女交際のマナー」などに関する教育を希望している (P.68 図IV-1)。しかし、学校での一律の性教育に対して、少数ではあるが不安も抱いている (P.69 表IV-2)。

#### ㉑ 相談相手にならない母親

性的な話題を母親が子どもとするのは、「異性にもてる方法」「エイズ」「好きな異性のタイプ」などが約3割前後である (P.71 図IV-2)。仲よしの友人との性的な会話量に比べ、父親、母親との会話量は問題にならないほど低い数値を示している (P.72 図IV-3)。

#### 〔調査概要〕

対象 ● 東京、埼玉、千葉の公立中学校 11 校の  
2・3年生

● 東京、埼玉の中学生の母親

サンプル数 ● 中学生 2,338名

(男子1,122名・女子1,216名)

● 母親 387名

調査時期 ● 1989年9月～12月

調査方法 ● 学校通しによる質問紙調査



# 第 I 章 性の悩みと環境



調査対象となった中学生は、東京、埼玉、千葉の公立中学校 11 校の 2・3 年生 2,338 名（男子 1,122 名、女子 1,216 名）である。（表 I-1）。また、中学生の性に対する意識や態度と比較するため、中学生の母親 387 名に中学生の調査票の一部を抜き出し実施した。これらのサンプルの総計は、2,725 名となる。調査時期は 1989 年 9 月～12 月にかけてであった。母親のサンプルの属性は巻末調査票に記入した数値のとおりである。

（表 I-1）サンプル数

（人）

	2 年	3 年	合 計
男 子	574	548	1,122
女 子	551	665	1,216
合 計	1,125	1,213	2,338

調査地域

東京・千葉・埼玉の公立中学校 2・3 年の男子・女子中学生

# 1. サンプルの基本的属性

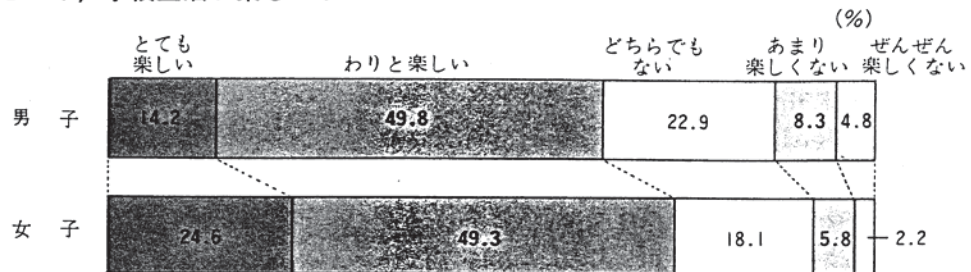
中学生のプロフィールの主なものを示すと、まず図 I-1、学校の楽しさでは、「とても・わりと楽しい」が約7割、「どちらでもない」が約2割、「あまり・ぜんぜん楽しくない」が約1割。また表 I-2、成績の自己評価では、ふつう、またはそれより上と思っている生徒が男女とも約6割強であるが、女子はよい(上)と思っている者は7%、悪い(下)と思っている者16%より少なく、男子に比べやや自己の過小評価の傾向がみられる。将来の進路については、図 I-2 に示すように、中学または高校を卒業したら就職したい生徒が男女とも16%、4年制大学進学希望者が男子45%、女子23%である。まだ将来の進路について「わからない」としている生徒も約3割いる。

両親の職業については、表 I-3 で示したように、母親の専業主婦率が男女とも25%前

後であり、父親不在の家庭は男子3%、女子で4%、母親不在は、男女とも1%となっている。表 I-4 は両親の学歴を示したものであり、義務教育だけの両親は男女とも1割弱となっている。また、両親の学歴を「知らない」中学生は男子で約4割、女子は約3割いる。中学生にとっては両親の最終学歴への関心が薄いのか、ふれたくないのか。

さて、中学生時代の身体の変化は急激である。とくに、女子において著しい。図 I-3 は、初潮経験を学年別に示したものである。小学6年までで52%の生徒が初潮を経験し、中学3年までに98%の生徒が経験している。図 I-4 で示したように、小学4年までで2%の子が初潮を迎え、最も早い子は、小学1年で体験している子もいる。小学6年(39%)、中学1年(33%)などの時期に比較的多

(図 I-1) 学校生活を楽しいか



(表 I-2) 成績

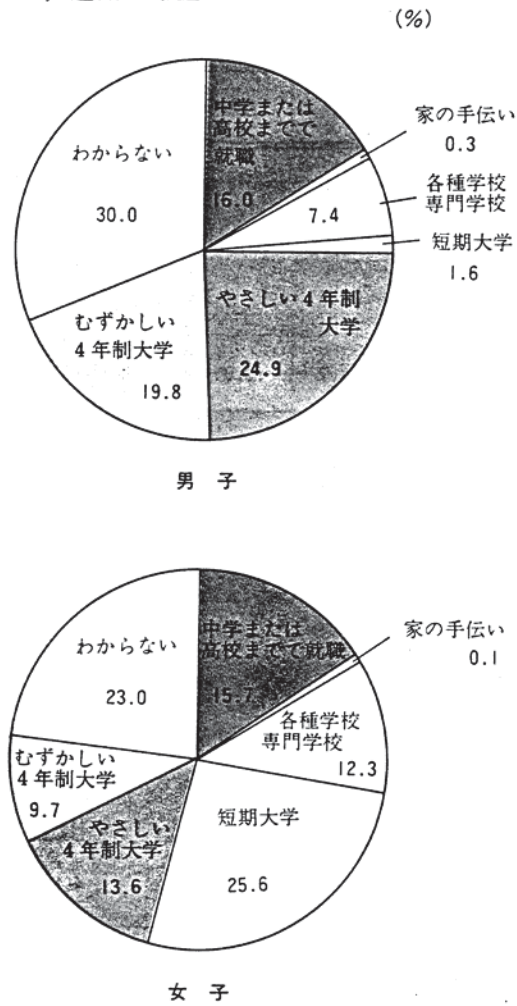
	上	中の上	中	中の下	下
男子	13.8	18.2	31.2	18.5	18.3
女子	7.4	19.5	36.2	20.6	16.3

くの子が初潮を迎えていることがわかる。このようにみると、性的な身体的変化は個人差が著しく大きいといえよう。

初潮を迎える季節では表I-5で示すように、小・中学生とも8月に体験する子が約2割と多く、小学生では、12月、1月に次のピ

ークがあり、中学生では新学期にもう一つの山がある。女子中学生の春から夏にかけてのこの体験は、慣れない中学校生活の経験と重なり、一層の不安ととまどいを感じているのではないだろうか。

(図I-2) 進路の希望



(表 I - 3) 両親の職業

父 親 ( % )

	男 子	女 子		男 子	女 子
自営業 (家業)	16.2	16.3	農・林・漁業	0.5	0.7
公務員・教職・事務職	45.7	49.7	その他	16.1	16.2
販売業	5.0	3.8	父親がいない	3.4	4.2
技術職	13.1	9.1			

母 親 ( % )

	男 子	女 子		男 子	女 子
家業の手伝い	13.7	13.0	専業の主婦	23.0	26.7
フルタイムの仕事	11.8	12.9	その他	15.2	10.9
パートタイムの仕事	34.9	35.3	母親がいない	1.4	1.2

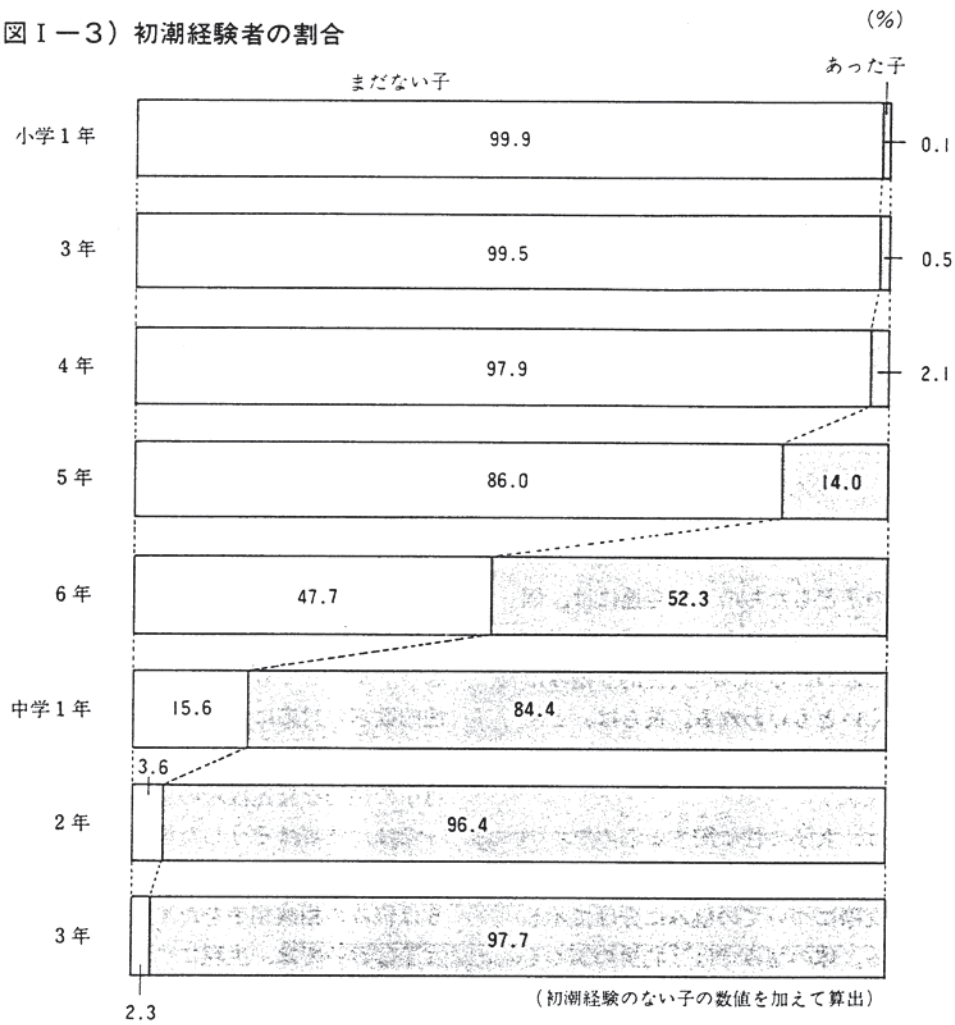
(表 I - 4) 両親の最終学歴

( % )

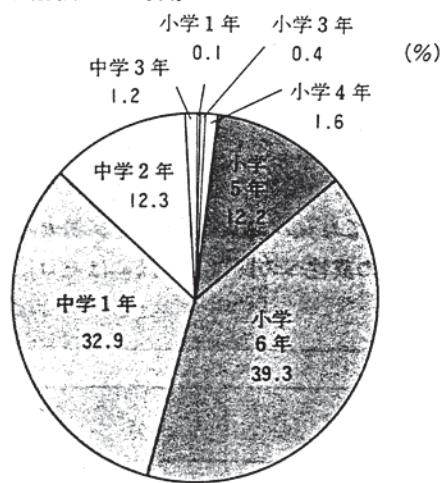
		中学校 卒業	高 校 卒 業	短大卒業	大学または それ以上	知らない
父 親	男 子	8.9	24.7	4.1	23.1	39.2
	女 子	8.2	27.1	4.8	26.1	33.8
母 親	男 子	7.3	32.2	7.8	8.1	44.6
	女 子	9.8	41.0	10.7	8.6	29.9



(図 I-3) 初潮経験者の割合



(図 I-4) 初潮を経験した時期



(表 I - 5) 何月に始まる子が多いか

(%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
小学校の時 初潮のあった子	5.8	2.9	5.4	6.0	18.6	10.8	6.4	6.0	12.2	11.4	6.4	8.1
中学校の時 初潮のあった子	17.8	9.3	6.4	6.9	21.5	8.9	5.6	4.7	5.8	6.2	2.9	4.0

## 2. 性の悩み

この時期の子どもたちの性的発達には、個人差が大きく、密かに悩みを抱えている者も少なくないと思われる。しかし、性的な悩みは表面に出にくいともいわれる。彼らは、どんな悩みを抱え、どのように解決しているのだろうか。

図 I - 5 は、女子の性に関する悩みを、(1)性に関する体の悩み、(2)生理についての悩み、(3)異性との交際についての悩みに分けて示したものである。体の悩みでは「乳房のふくらみや形の悩み」「避妊について知りたい」「妊娠や出産について知りたい」が、「とても・少しある」生徒が約3割いる。生理の悩みでは、「体育の授業」「生理不順」「生理痛」「ゆううつ感」を約6割の者が感じている。すなわち、生理時の痛み、疲労感、気分のゆううつ、体育の授業での不安感など生理期間中にかなりの生徒が不快な思いをして生活していることがわかる。異性との交際についての悩みでは、「片思いの悩み」が「とても・少しある」者が約5割を占め、中学生の異性への関心が示されている。

図 I - 6 は男子の性に関する悩みを示したものである。「女の子にキスしてみたいなどと思う」が「とても・少しある」者は約3割で、性的欲求の対応に悩んでいる様子がわかる。しかし「片思いの悩み」は約2割で、女子と男子の性的な発達段階の違いがみられる。

では、彼らはそうした悩みを持ったとき、どのように解決しているのだろうか。表 I - 6 は悩みの相談相手をたずねたものである。女子においては、生理についての相談は「同級生」(54%)、「母親」(57%)、体についての悩みの相談は、「同級生」(38%)、「母親」(26%)、異性との交際の悩みの相談は、「同級生」(66%)としている。男子においては、性に関する心や体の悩み、異性との交際の悩みとも「同級生」に約3割の者が相談しており、「誰にも相談しない」者も約3割いる。また、心や体に関する悩みを「母親」(7%)、「父親」(6%)に相談する者はごくわずかである。そして、男女とも「教師」への「性に関する相談」はゼロに等しい。性的な問題の相談相手として教師は信頼されていないのだろうか。

(図 I-5) 女子の性に関する悩み

(1) 性に関する体の悩み

(%)

	とても ある	少し ある	あまりない	ぜんぜん ない
1. 乳房のふくらみや形の悩み	7.3	23.7	39.1	29.9
2. 避妊について知りたい	9.1	20.9	36.8	33.2
3. 妊娠や出産について知りたい	8.6	21.8	37.5	32.1
4. 性器の形や大きさの悩み	3.8	11.9	44.6	39.7

(2) 生理についての悩み

(%)

	とてもある	ときどきある	あまり ない	ぜんぜん ない
1. 生理の時の体育の授業がゆううつ	34.3	33.1	19.5	13.1
2. 生理が不規則	29.2	37.7	22.6	10.5
3. 生理痛	18.8	42.9	24.5	13.8
4. 生理の時のゆううつ感	19.9	38.6	25.8	15.7
5. 生理の時のいらいら感	15.2	29.0	32.1	23.7
6. 生理の時、勉強に集中できない	11.5	25.0	37.4	26.1
7. 生理の期間が長い	9.4	21.9	44.3	24.4

(図 I-5) 女子の性に関する悩み

(3) 異性との交際についての悩み

(%)

	とても ある	少しある	あまりない	ぜんぜんない
1. 片思いの悩み	23.4	24.8	24.6	27.2
2. ラブレターや贈り物の渡し方	8.0	13.3	33.5	45.2
3. 男の子と楽しく話すことができない	6.3	13.7	41.0	39.0
4. 男の子の友だちができない	3.7	14.2	42.1	40.0
5. つきあっている男の子の気持ちかわからない	7.8	9.5	24.7	58.0



(図 I-6) 男子の性に関する悩み

—性に関する心や体・異性との交際についての悩み—

	(%)			
	とても ある	少しある	あまりない	ぜんぜんない
1. 「女の子にキスしてみたい」 などと思う	13.7	19.7	29.2	37.4
2. 友だちと一緒に風呂に入るのがはずかしい	5.6	22.2	34.5	37.7
3. 片思いの悩み	9.6	14.5	29.8	46.1
4. デートのしかたがわからない	7.4	11.2	23.4	58.0
5. 好きでない子からの片思いの悩み	7.3	10.5	22.6	59.6
6. ラブレターや贈り物の渡し方	5.6	10.8	22.2	61.4
7. 女の子と楽しく話すことができない	5.1	8.6	28.9	57.4
8. 女の子の友だちができない	5.0	8.1	34.3	52.6
9. 変声期の悩み	3.1	9.3	26.2	61.4
10. つきあっている女の子の気持ち がわからない	4.1	6.3	20.4	69.2

(表 I - 6) 悩みの相談相手

女子

(%)

	生理についての悩み	性に関する体の悩み	異性との交際の悩み
同級生	53.9	37.7	66.3
先輩	1.9	1.0	6.5
母親	56.7	25.7	8.6
父親	0.6	0.2	1.0
きょうだい	8.9	4.9	9.7
医師	0.7	0.3	0.1
養護の先生	5.6	1.6	0.5
家庭科の先生	0.4	0.2	0.1
電話相談	0.2	0.4	0.5
雑誌・ラジオへの投書	0.8	0.8	0.9
誰にも相談しない	13.9	31.8	18.3

(表 I - 6) 悩みの相談相手

	男 子 ( % )	
	性に関する 心や体の悩み	異性との交際 の悩み
同級生	28.8	32.4
先輩	3.1	3.9
母親	7.3	3.2
父親	6.4	2.9
きょうだい	3.7	3.8
医師	1.5	0.8
養護の先生	1.7	1.2
家庭科の先生	0.6	0.6
電話相談	1.2	0.8
雑誌・ラジオへの投書	1.3	1.0
誰にも相談しない	34.9	33.2

### 3. 性情報との接触

この章の最後に、中学生たちが日常どれくらい性情報や性的な刺激に触れているかみてみよう。

図 I-7 は、中学生がよく読むと思われる雑誌を掲げ、それを読む割合をたずねたものである。「発売されたら必ず・かなり・ときどき読む」割合の高い順に並べてみた。男子では『少年ジャンプ』が 87% と圧倒的に多く読まれ、以下、『少年マガジン』(51%)、「オーディオ関係の雑誌」(33%)、「オートバイ関係の雑誌」(29%)、「ポルノ写真雑誌」(22%) となっており、他の雑誌はわずかである。「ポルノ写真雑誌」を 22% の者が見ていることは、中学生男子の中に性的な刺激を求め、性に強い関心を示す生徒もかなり出てきていることがわかる。また、『少年ジャンプ』『少年マガジン』はマンガ雑誌であるが、性的描写も多く含まれており、無意識のうちに性情報の影響を受けていると思われる。

女子においては、『明星』が 57% と多く読まれ、『りぼん』(51%)、『セブンティーン』(50%)、『レモン』(46%)、『マイバースデイ』(40%) となっている。『明星』は音楽情報誌、『りぼん』はマンガ雑誌、『マイバースデイ』は占いの雑誌の傾向があるが、『セブンティーン』『レモン』も含め性情報も多い雑誌でもある。しかも男子に比べ、女子のほうが雑誌の購読量は多い傾向にある。

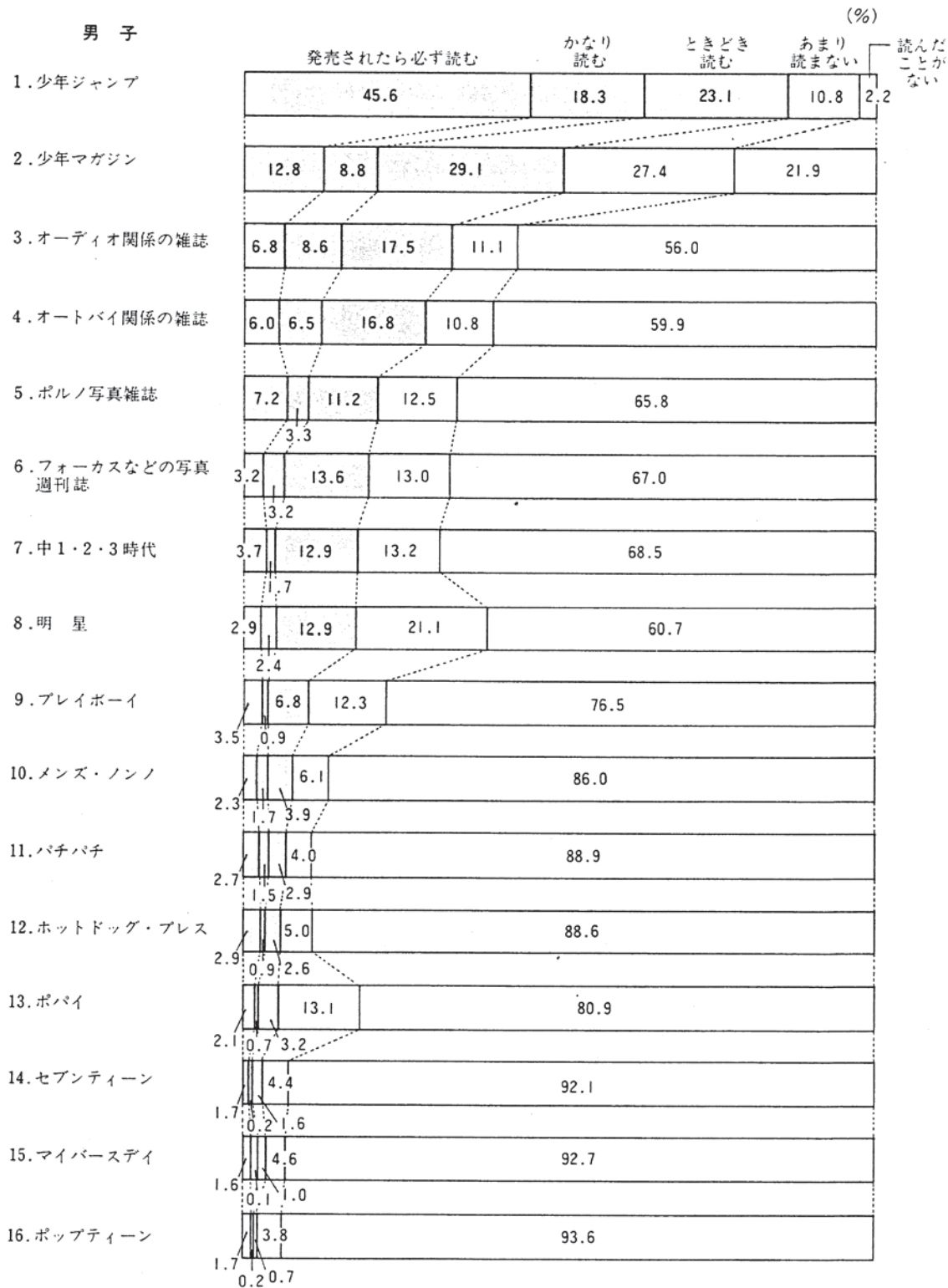
では、彼らはこれらの雑誌のどのような記事を読んでいるのであろうか。図 I-8 は、

性に関する記事の項目を示し、読んだことがあるかたずねたものである。これら記事の購読量も女子のほうが多く、女子は、「初恋について」「男の子の好む女の子のタイプ」の記事を約 85% の者が読んでいる。次いで、「男の子にもてる方法」「中学生のキスの経験」「中学生のセックスの体験談」の記事を 5 割以上の者が読んでいる。男子は、全体の購読量が少ないが、「初恋について」(45%)、「女の子にもてる男の子のタイプ」(38%)、「エイズ」(45%)、「ポルノマンガ」(32%) が多い。女子が初恋や異性との交際に興味があるのに対し、男子は直接的性表現の多い記事に関心を示していることがわかる。

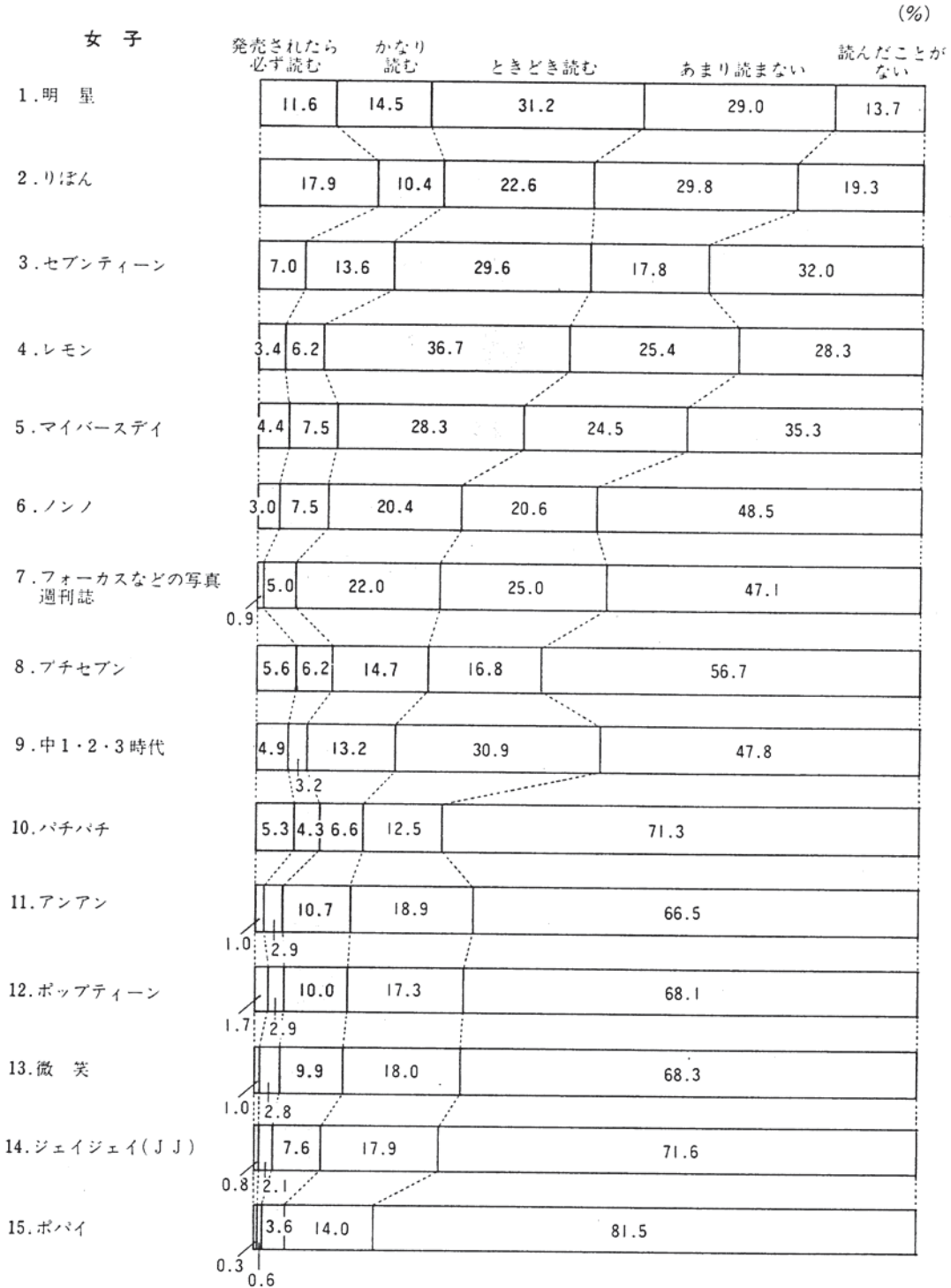
では、そうした性情報の中で、日常生活を送っている彼らは、どんな性的な会話をしているのだろうか。図 I-9 は、雑誌で読む性的な話題を仲のよい友だちと、どの程度おしゃべりするかたずねたものである。女子は、「初恋について」約 6 割、「男の子に好まれる女の子のタイプ」の場合は約 4 割の者が話題にする機会を持っている。男子については「初恋」「ポルノマンガ」について約 3 割の者が話題にしている。図 I-10 で示したように女子のほうが性的な話題を積極的に話している様子がわかる。とくに女子は異性との交際への期待と関心を示しているのに対し、男子はポルノマンガのように、男子特有の生理的欲求にもとづいた話題が多いようである。



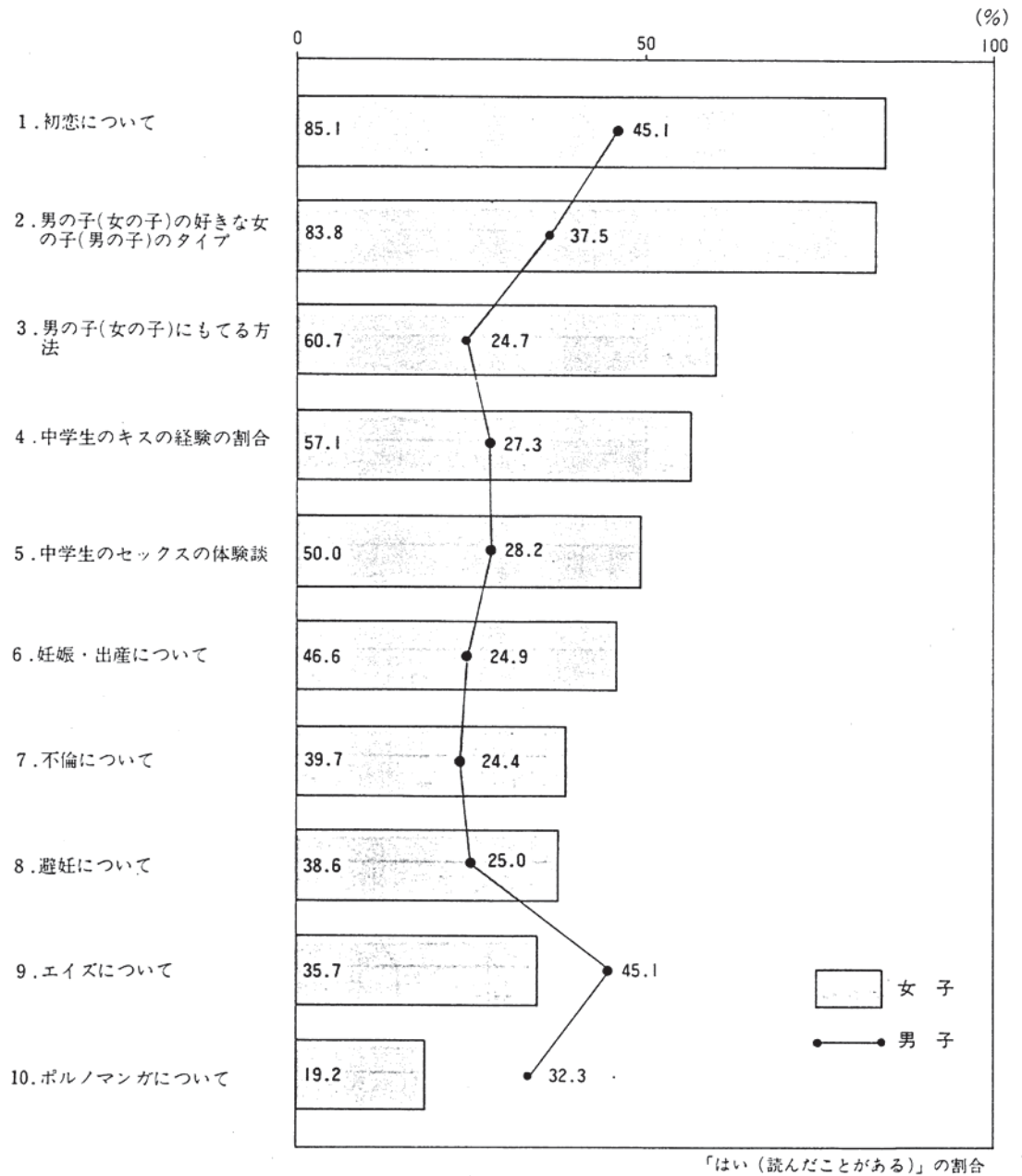
(図 I-7) 雑誌の購読量



(図 I-7) 雑誌の購読量

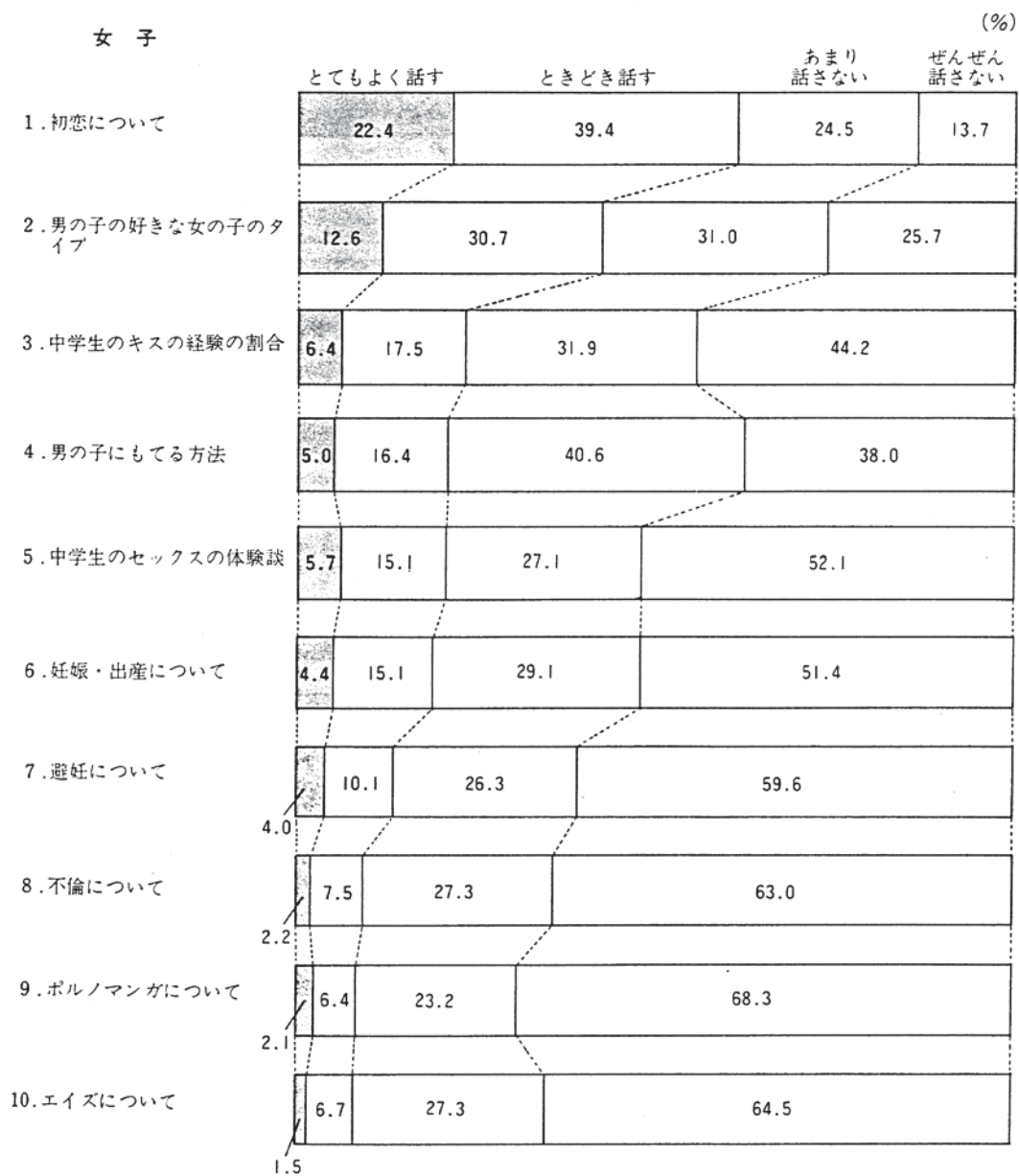


(図 I-8) 性に関する雑誌の記事の購読量



(図 I-9) 性的な話題の会話量

—仲のよい友だちとおしゃべりするとき—





(図I-9) 性的な話題の会話量

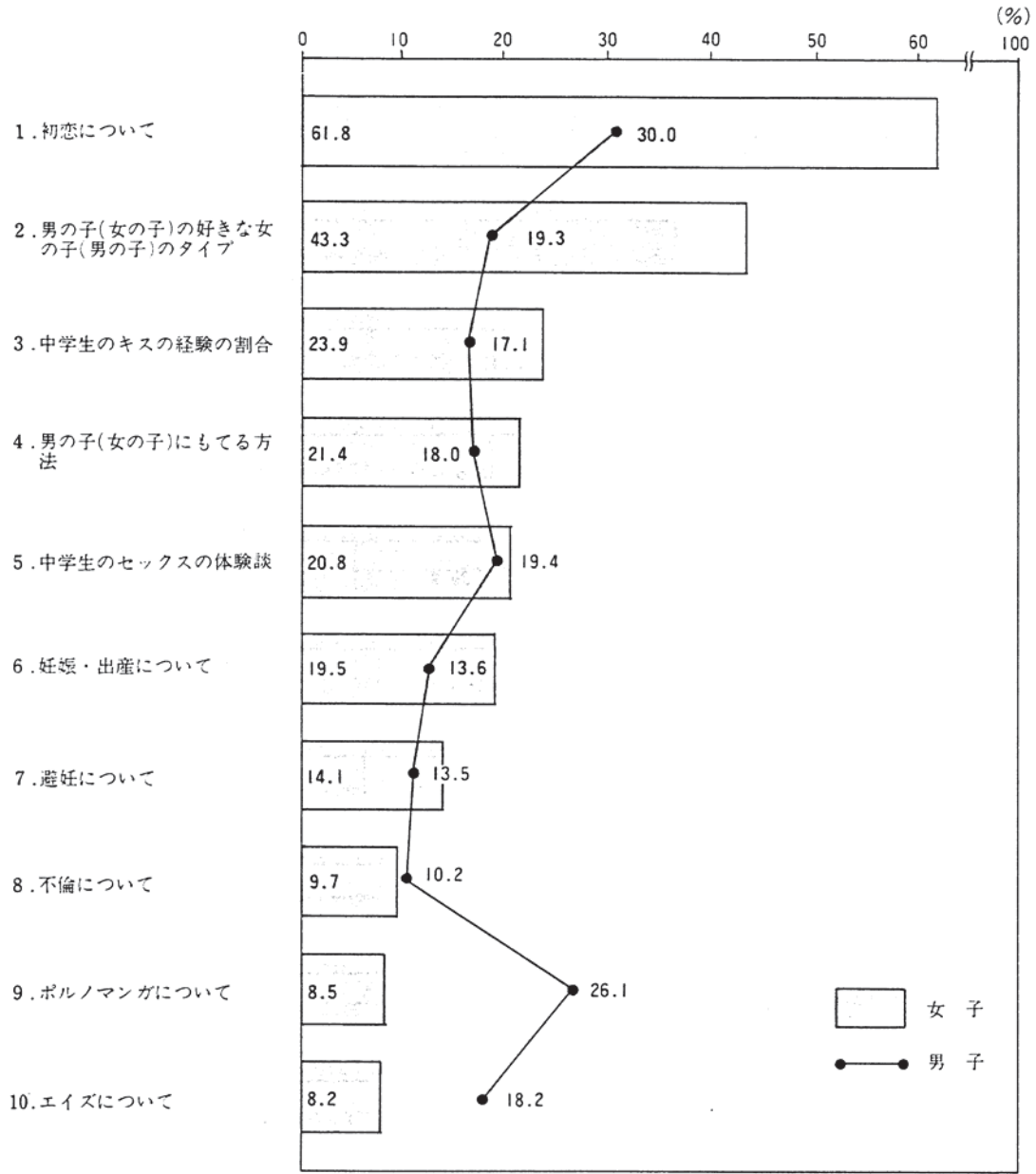
—仲のよい友だちとおしゃべりするとき—

(%)

男 子	とてもよく話す	ときどき話す	あまり話さない	ぜんぜん話さない
1.初恋について	9.8	20.2	25.5	44.5
2.ポルノマンガについて	13.4	12.7	17.5	56.4
3.中学生のセックスの体験談	9.6	9.8	18.6	62.0
4.女の子の好きな男の子のタイプ	6.9	12.4	26.8	53.9
5.エイズについて	7.8	10.4	25.1	56.7
6.女の子にもてる方法	6.8	11.2	27.3	54.7
7.中学生のキスの経験の割合	7.5	9.6	22.1	60.8
8.妊娠・出産について	7.3	6.3	18.9	67.5
9.避妊について	7.1	6.4	17.2	69.3
10.不倫について	6.1	4.1	17.1	72.7

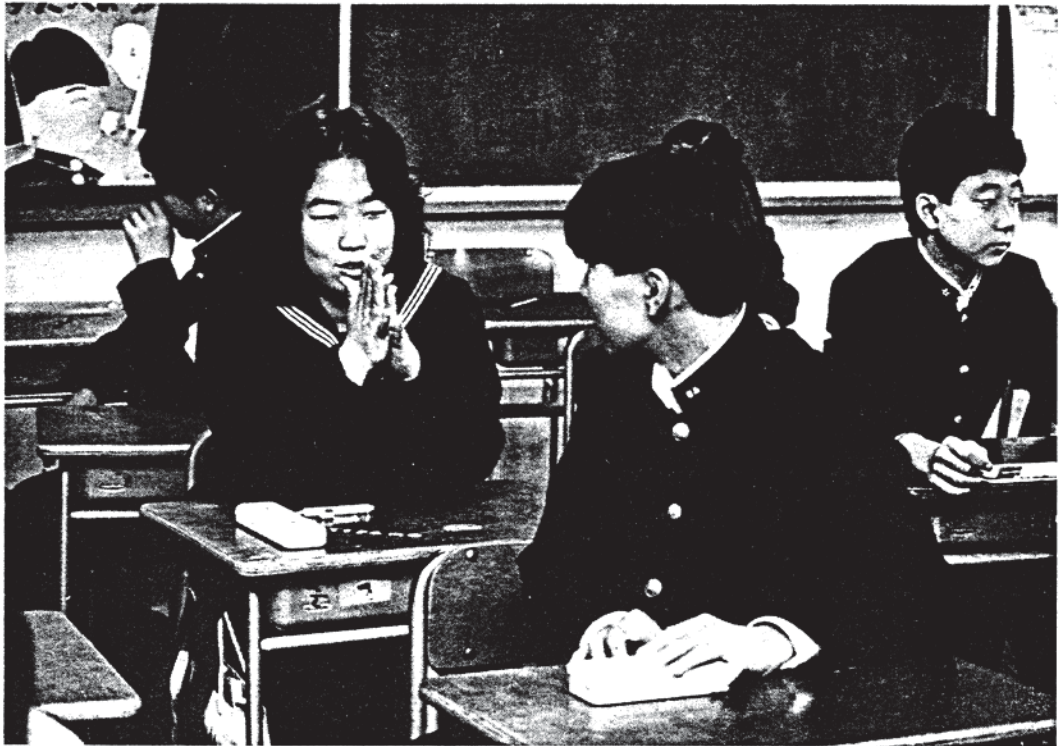
(図 I-10) 性的な話題の会話量

—仲のよい友だちとおしゃべりするとき—



「とてもよく話す+ときどき話す」割合

## 第II章 中学生の異性体験



中学生をめぐる性的な環境は第I章で、女子の初潮体験の年齢の早まりに代表される身体的な著しい変化と、十分すぎる性情報と性的な刺激との接触をみてきた。こうした環境は、中学生に性に対する過剰な期待と同時に不安

をも抱かせるものである。この章では、中学生たちが異性に対しどのような関心を持ち、どれほど異性との接触体験をもっているか、過去の体験、将来への期待などを視野に入れながら探っていきたい。

### 1. 両思いの交際

まず中学生が異性とどの程度直接的な交際をしているのか、その実態をみてみよう。

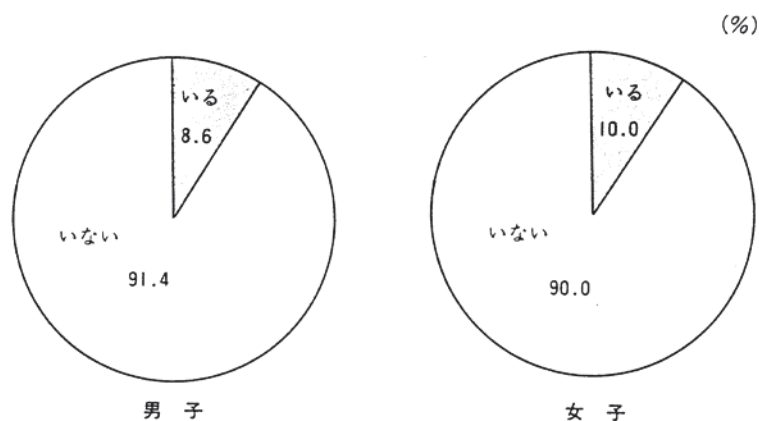
図II-1は、現在、つきあっている異性の相手がいる割合を示したものである。男女とも約10%が特定の異性と1対1の交際をしていることがわかる。高校生の数値は、昨年『モノグラフ・高校生'89』vol.26「高校生と性」で報告した高校生の場合の異性とつきあって

いる割合を示したものである。男子15%、女子20%となっており、現在の中学生の数値からも1~2年経つと、この数値に近くなることが予想されよう。表II-1では「現在つきあっている相手がいる」を成績別にみたものである。成績の上位者、下位者に異性とつきあっている生徒が多い。高校生の数値と比べても、同様の傾向が見られる。高校生もそう

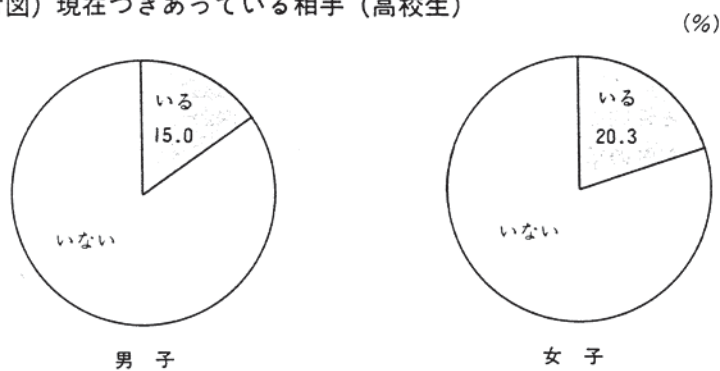
であるが、この時期の異性への関心が高い者には、成績の上位者と下位者に多く、上位者は学業にも異性にも積極的であり、下位者は学業に満たされないものを異性とのつきあいに求めて学校生活を送っているのではなからうか。

もう少し数値を追ってみよう。表II-2は学年別にみたものである。男女とも学年が上がるにしたがって、つきあっている相手のいる生徒が多くなる傾向にあり、女子のほうがより積極的である。恋愛に関しても女子のほうが関心も強く、早熟な傾向が指摘できそう

(図II-1) 現在つきあっている相手



(付図) 現在つきあっている相手 (高校生)



である。

では、中学生がつきあっている対象をみてみよう。表II-3から「同級生」が男子では70%、女子では60%と圧倒的に多い。次いで男子は「塾の友だち」(5%)、「大学生」(5%)、女子では「先輩」(19%)、「社会人」(5%)

%)となっており、男子に比べ、やや学校外の異性との関わりの様子がうかがえる。高校生の数値をみると、高校生男子は「同級生」「先輩・後輩」「部活動の仲間」、女子では「同級生」「社会人」「先輩・後輩」の順に多く、中学生とほぼ同様の傾向がみられる。

(表II-1) 現在つきあっている相手がいる×成績

(%)

	上	中の上	中	中の下 下
男子	14.4	6.1	5.8	9.5
女子	17.5	6.0	5.5	15.1

「つきあっている相手がいる」割合

(付表) 現在つきあっている人がいる×成績 (高校生)

(%)

	上	中の上	中	中の下	下
男子	20.5	18.5	7.4	13.4	21.8
女子	34.5	21.6	18.5	19.4	23.2

「いる」の割合

(表II-2) 現在つきあっている相手がいる×学年

(%)

	2年	3年
男子	7.0	10.3
女子	7.3	12.2

「つきあっている相手がいる」割合



(表II-3) つきあっている対象

(%)

	男子	女子
同級生	69.6	59.6
幼なじみの近所の子	0.0	2.6
先輩	2.2	19.3
友だちのきょうだい	0.0	0.9
塾の友だち	5.4	2.6
部活動の仲間	1.1	1.8
大学生	5.4	0.9
社会人	3.3	5.3
その他	13.0	7.0

(付表) つきあっている対象 (高校生)

(%)

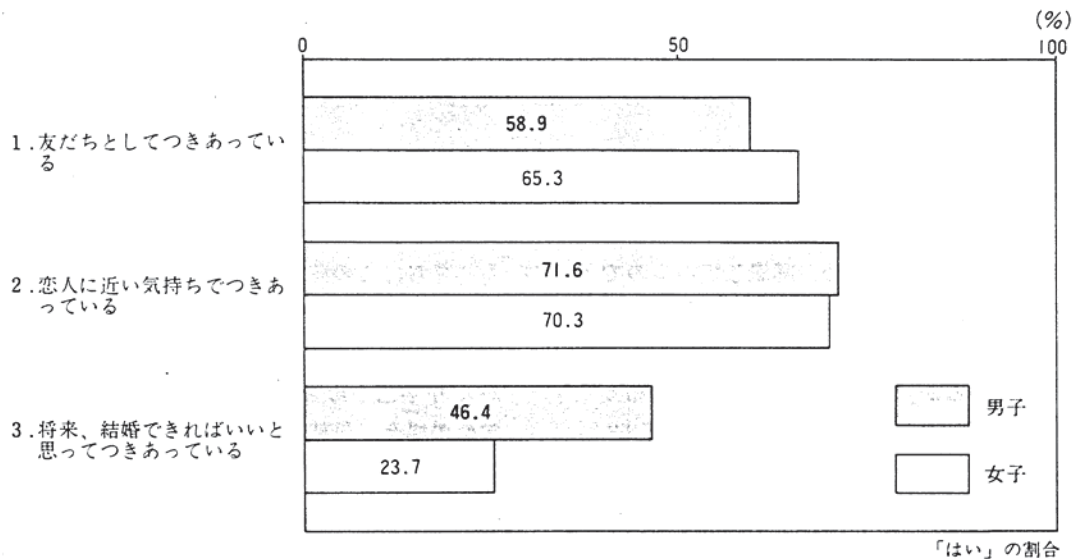
	男子	女子
同級生	60.7	60.6
幼なじみの近所の子	5.4	1.4
先輩・後輩	17.9	16.9
友だちのきょうだい	5.4	0.0
部活動の仲間	10.7	4.2
大学生	5.4	2.8
社会人	8.9	21.1
その他	10.7	4.2

### ●異性への思い

では、彼らはお互いにどんな気持ちを抱きながら交際しているのか。図II-2は「交際している異性に対する気持ち」をたずねたものである。「恋人に近い気持ちでつきあっている」と思っている者は、男女とも約7割で最も多い。「将来、結婚できればと思ってつきあっている」者は男子で46%、女子で24%と女子のほうが低い数値を示しているのはなぜだろう。中学生の女子は異性とのつきあいを

一種のファッションと考えているのだろうか。表II-4は学年別にみたものである。「友だちとしてつきあっている」と思っている者は男女とも2年生に多く、女子にとって「恋人に近い気持ちでつきあっている」「将来、結婚できればと思ってつきあっている」と思っている者は、学年が上がるにしたがって多くなる傾向にある。男子は、学年差がみられない。女子中学生にとってこの時期の1年の成長は、身体的、精神的に予想以上に大きいものかもしれない。

(図II-2) 交際している異性に対する気持ち



(表II-4) 交際している異性に対する気持ち×学年

(%)

		2年	3年
友だちとしてつきあっている	男子	64.5	54.8
	女子	72.7	61.8
恋人に近い気持ちでつきあっている	男子	71.9	71.4
	女子	61.3	74.3
将来、結婚できればいいと思ってつきあっている	男子	48.1	45.2
	女子	11.1	28.8

「はい」の割合

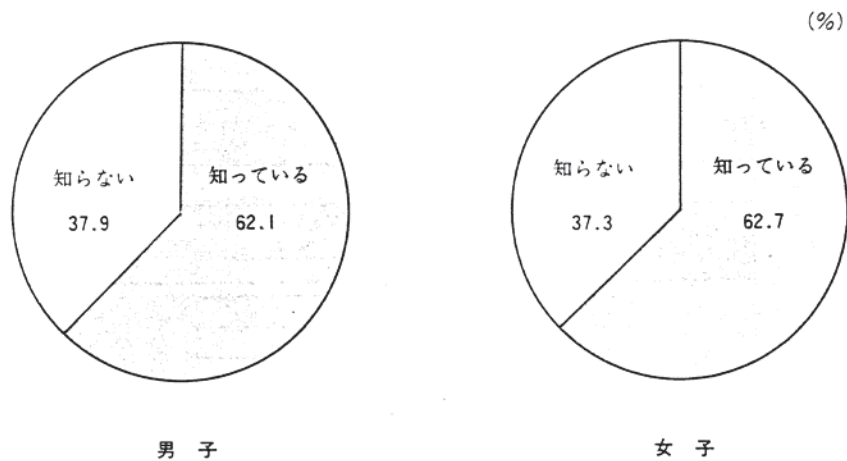
### ●母親はどう思っているか

中学生のそうした異性とのつきあいを母親はどのように受け止め、認識しているのだろうか。図II-3は異性とつきあっている中学生に「母親は異性とつきあっていることを知っているか」たずねたものである。「知っている」と思っている者は男子62%、女子63%である。表II-5は、「知っている」と思う中学生の母親の学歴との関わりをみたものである。男子では、「大卒またはそれ以上」の高学歴の母親、女子では「中卒高卒」の母親が数値が高い。では、母親は子どもたちの中学生どうしの異性とのつきあいをどう把握しているのか。図II-4は母親に「自分の子どもにつきあっている異性の相手がいるか」たずね

たものである。2%の母親が「いる・いるようだ」と答えているだけで、母親(2%)と子ども(10%)の間に数値のズレがみられる。さらにこの認識のズレを追ってみたい。

図II-5は中学生の異性とのつきあいの中で「母親が交際することをどう思っているか」、中学生と母親にたずねたものである。中学生の場合、母親が「反対している」と思っている者は男子で3%、女子で12%であるが、「喜んでいる」と思っている者が男子で38%、女子で19%に達している。一方、母親に同様の項目をたずねると(スケールは多少違うが)、「反対している」母親が54%、「喜んでいる」母親はゼロであり、母子の認識の差がかなり大きいことがわかる。

(図II-3) 交際していることを母親は知っていると思うか  
(相手のいる中学生の場合)

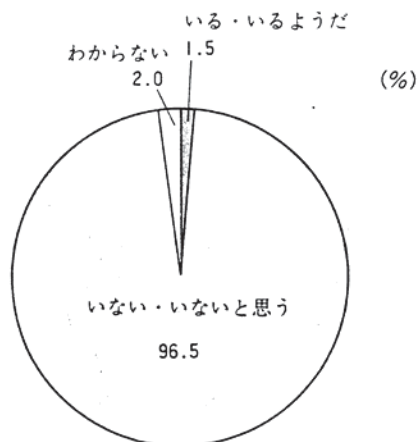


(表II-5) 交際していることを母親は知っていると思うか×母親の学歴  
(%)

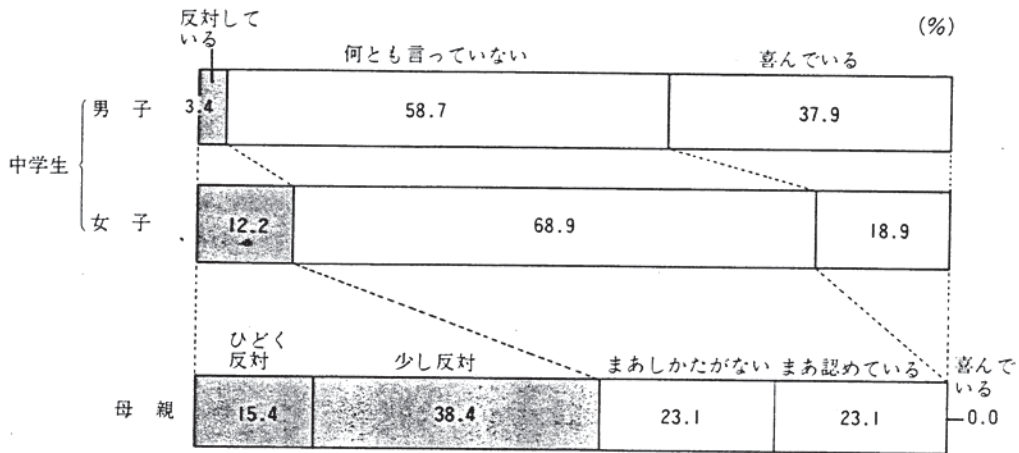
	中高卒	短大卒	大卒またはそれ以上
男子	64.1	70.0	100.0
女子	69.8	30.8	50.0

「知っている」割合

(図II-4) 母親は子どもに「交際している異性の相手がいる」と思っているか



(図II-5) 異性と交際していることを母親はどう思っているか



### ●異性との接触体験

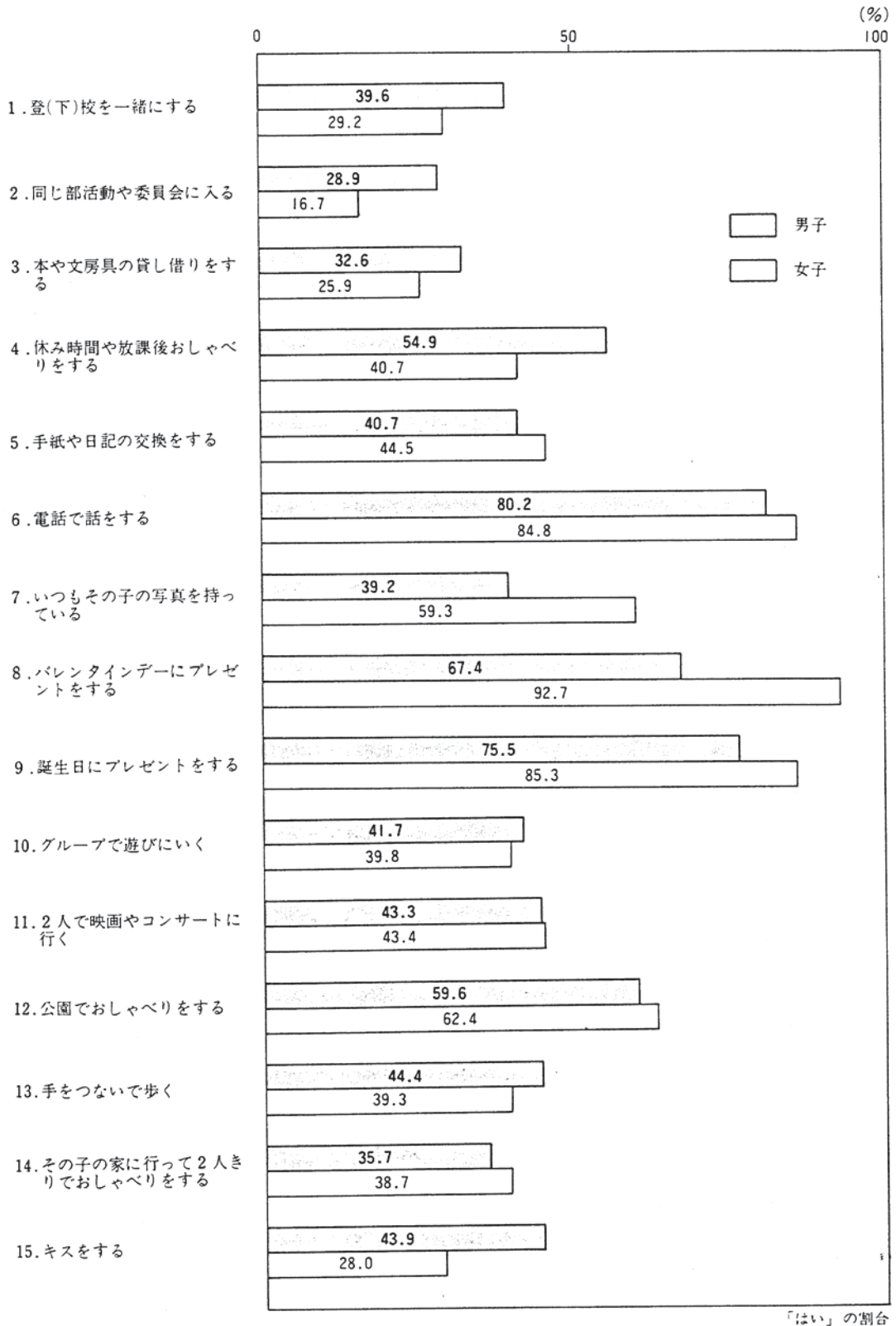
これまで異性との接触を大づかみにみてきたが、次に接触の具体的な方法についてみてみたい。図II-6は「交際している異性との接触体験」として、「登下校を一緒にする」「同じ部活動や委員会に入る」から「キスをする」までの15項目の接触方法をあげ、現在異性とつきあっている中学生にたずねたものである。高校生対象の調査では「キス」の外に「ベッティング」「性的な関係」までをたずねることが可能であったが、中学生の段階では、この項目にはどう表現を工夫しても無理があるように思われ、「キス」までを取り上げた。全体としては「電話でのおしゃべり」「バレンタインデーのプレゼント」「誕生日のプレゼント」などのプラトニックな接触が中心であるが、「手をつないで歩く」が男子44%、女子39%、「その子の家に行って2人きりでおしゃべりをする」が男子36%、女子39%、「キスをする」が男子44%、女子28%と、具体的な性的な接触の数値も予想以上に高い。現在つきあっている相手がいる者は10%と少ない

が、相手ができれば異性に直接手を触れたり、キスをしたりする中学生が3割~4割にも達することがわかる。

さらに数値を追って、図II-7は、学年別にみたものである。相手のいる場合、男女とも学年が上がるにしたがい、直接的な接触体験が深まる傾向にある。とくに女子においては、「キスをする」体験は2年生で13%から3年生で34%と急上昇していることが気になる。表II-6は、「接触体験」を成績別にみたものである。全般に男女とも成績の上位者に、より積極的な性行動がみられる。「キスをする」者は男子の成績上位者で73%、女子の成績上位者47%、中の上の者54%と、成績のよい者が高い数値を示している。表II-7は母親の学歴との関係を示したものである。男女とも、母親が「大卒またはそれ以上」と高学歴の者に「その子の家に行って2人きりでおしゃべりをする」「手をつないで歩く」「キスをする」などの直接的な性行動に6割強という高い数値が示されている。ただし、これが高学歴の母親の許容性の大きさを意味するものかどうかは不明である。

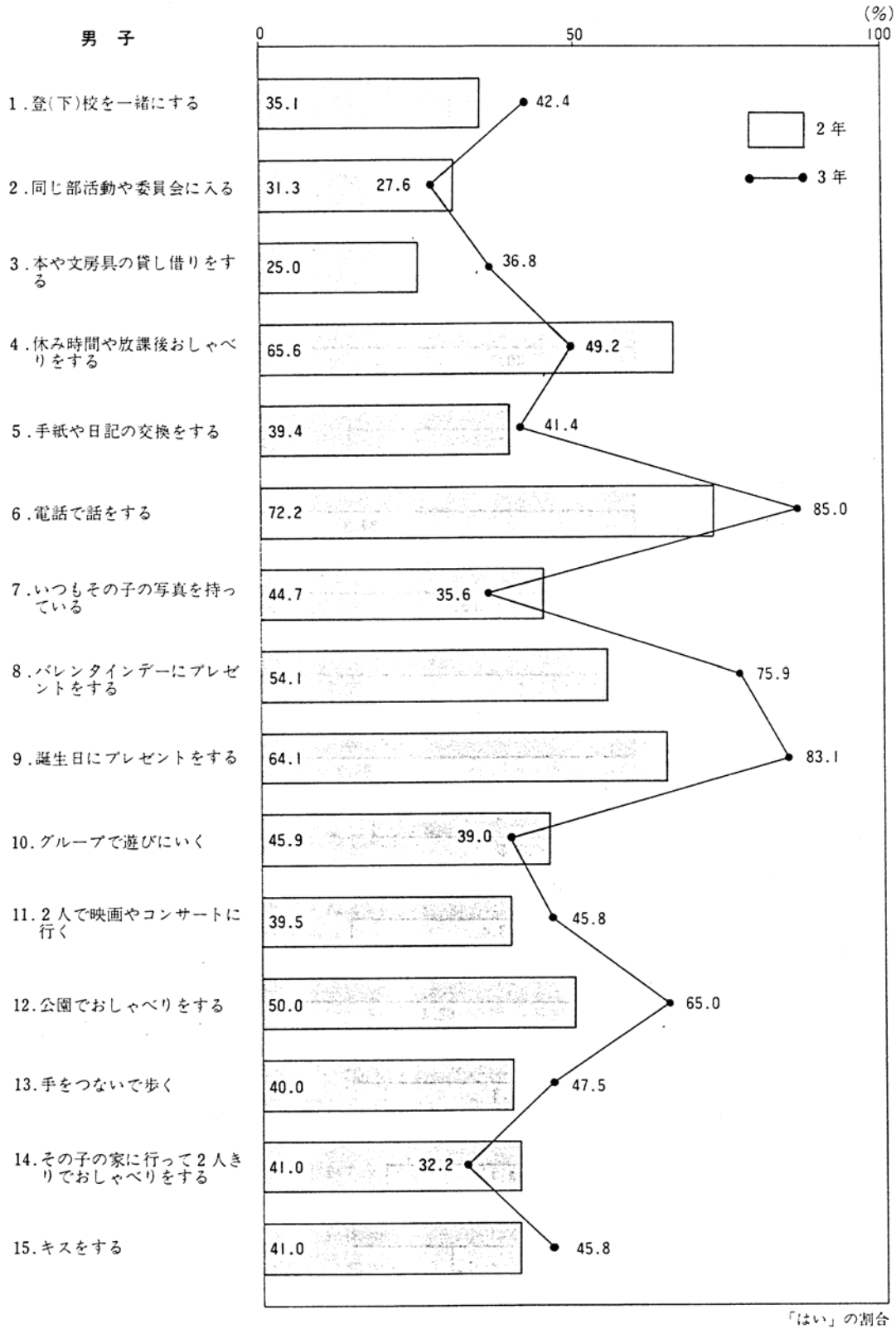


(図II-6) 交際している異性との接触体験 (相手がいる場合)

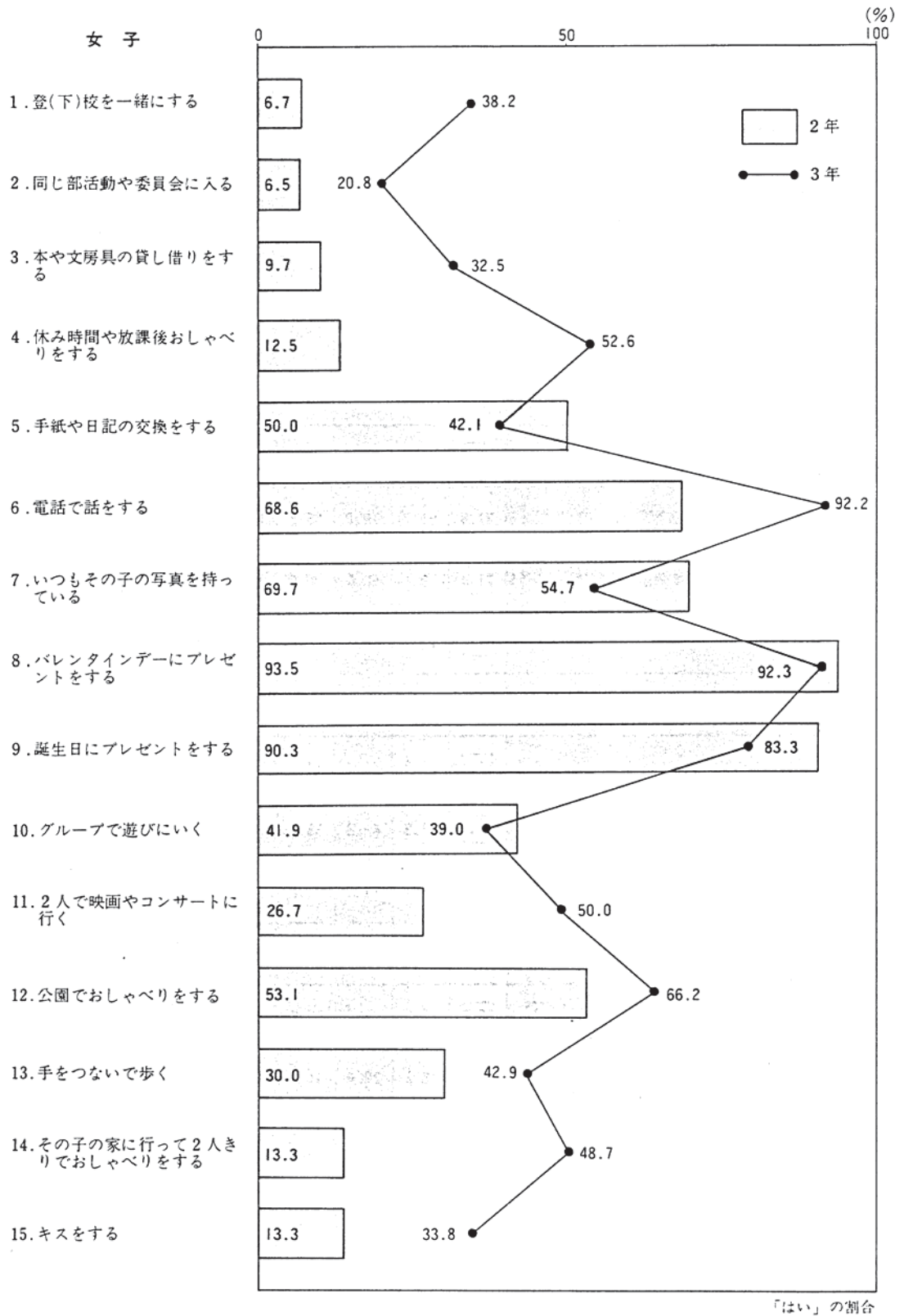


「はい」の割合

(図II-7) 交際している異性との接触体験×学年



(図II-7) 交際している異性との接触体験×学年



(表II-6) 交際している異性との接触体験×成績

(%)

	男 子				女 子			
	上	中の上	中	中の下 下	上	中の上	中	中の下 下
1.登(下)校を一緒にする	(61.9)	36.4	31.3	35.9	(66.7)	46.2	10.5	21.4
2.同じ部活動や委員会に入る	(57.1)	27.3	17.6	20.6	(40.0)	15.4	10.0	14.0
3.本や文房具の貸し借りをする	(61.9)	27.3	17.6	27.3	33.3	(38.5)	25.0	22.8
4.休み時間や放課後おしゃべりをする	(76.2)	45.5	47.1	51.4	(66.7)	53.8	25.0	38.6
5.手紙や日記の交換をする	(88.1)	36.4	29.4	29.4	(57.1)	30.8	54.5	40.4
6.電話で話をする	81.8	(91.7)	72.2	86.5	(100.0)	84.6	80.0	81.7
7.いつもその子の写真を持っている	(71.4)	9.1	50.0	30.0	(93.3)	50.0	63.2	50.0
8.バレンタイデーにプレゼントをする	(81.8)	72.7	68.8	59.5	(100.0)	84.6	84.2	94.7
9.誕生日にプレゼントをする	(81.8)	60.0	76.5	80.0	(100.0)	76.9	78.9	84.2
10.グループで遊びに行く	(57.1)	27.3	41.2	44.7	26.7	(61.5)	31.6	42.1
11.2人で映画やコンサートに行く	(81.0)	27.3	41.2	35.9	(60.0)	58.3	21.1	42.1
12.公園でおしゃべりをする	71.4	36.4	38.9	(73.0)	(73.3)	53.8	57.1	61.4
13.手をつないで歩く	(72.7)	33.3	41.2	35.9	(66.7)	46.2	26.3	35.1
14.その子の家に行って2人きりでおしゃべりをする	(63.6)	18.2	29.4	30.8	50.0	(53.8)	15.8	40.4
15.キスをする	(72.7)	18.2	29.4	41.0	46.7	(53.8)	15.8	22.8

「はい」の割合

(表II-7) 交際している異性との接触体験×母親の学歴

(%)

	男 子			女 子		
	中 高 卒	短大卒	大卒ま たはそ れ以上	中 高 卒	短大卒	大卒ま たはそ れ以上
1. 登(下)校を一緒にする	35.9	33.3	(40.0)	27.1	(30.8)	25.0
2. 同じ部活動や委員会に入る	27.0	25.0	(40.0)	18.6	15.4	(22.2)
3. 本や文房具の貸し借りをする	25.0	37.5	(40.0)	25.4	38.5	(44.4)
4. 休み時間や放課後おしゃべりをする	50.0	50.0	(60.0)	37.9	(53.8)	33.3
5. 手紙や日記の交換をする	27.0	55.6	(80.0)	43.3	30.8	(66.7)
6. 電話で話をする	(82.1)	80.0	66.7	(90.0)	76.9	77.8
7. いつもその子の写真を持っている	28.2	44.4	(60.0)	58.6	61.5	(71.4)
8. バレンタインデーにプレゼントをする	74.4	77.8	(80.0)	95.0	92.3	(100.0)
9. 誕生日にプレゼントをする	76.9	(80.0)	66.7	(88.3)	69.2	87.5
10. グループで遊びに行く	34.2	33.3	(50.0)	(40.7)	38.5	25.0
11. 2人で映画やコンサートに行く	39.5	55.6	(66.7)	40.7	(53.8)	50.0
12. 公園でおしゃべりをする	65.8	55.6	(66.7)	60.7	(69.2)	66.7
13. 手をつないで歩く	41.0	40.0	(66.7)	37.3	46.2	(62.5)
14. その子の家に行って2人きりでおしゃべりをする	26.3	40.0	(66.7)	33.9	(53.8)	42.9
15. キスをする	42.1	50.0	(66.7)	22.0	38.5	(62.5)

「はい」の割合



## 2. 片思いの胸の中

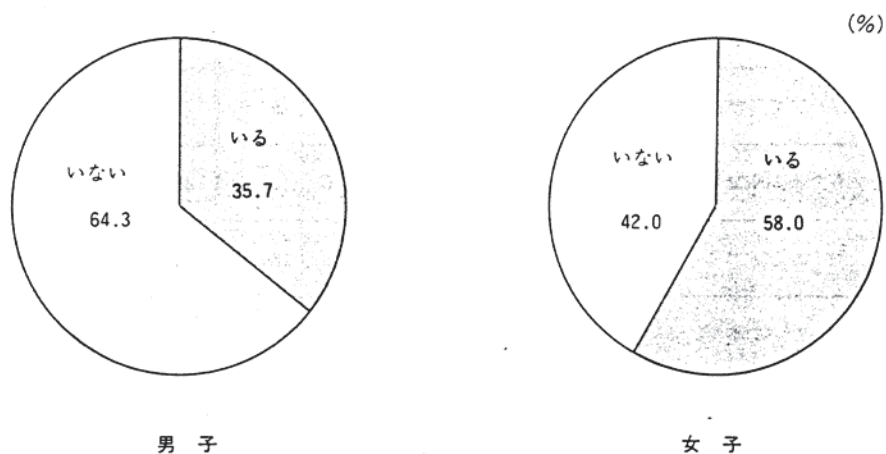
中学生の場合、両思いの相手のいる者は10%。ではそれ以外の中学生たちはどのように異性と関わっているのか。図II-8に示したように、「片思いの相手」がいる者は男子で36%、女子では58%にも達する。表II-8は成績との関わりを示したものである。片思いは、男子では成績の上位者に48%、女子では成績の下位者に67%と多い。表II-9は学年別にみたものである。

では中学生にとって、片思いの相手は、どんな対象なのか。表II-10でみると「同級生」が男子93%、女子78%と圧倒的に多く、次いで女子では、「先輩」18%となっている。男

女とも多くの中学生が学校の中で、「思い、思われる」様子であるが、両思いの相手と同様、女子においては社会人(5%)を対象としている生徒がいることがやや気にかかる。

では心の中で描いている「好きな人」に対して彼らはどのような行動をとり、現実化していくのであろうか。図II-9は相手の気持ちはどうなのかたずねた結果である。相手が自分の片思いを知っている割合をみると、「とてもよく・なんとなく知っている」としている生徒は男子で34%、女子で54%。そして「つきあってほしい」と将来、言うつもりかどうかたずねた結果が図II-10であり、男子50

(図II-8) 片思いの相手



、女子 28% が相手に交際を申し込もうとしている。「つきあってほしい」と言うことについては男子のほうが積極的であり、女子にとっては、片思いの相手に気持ちを伝えることもせず、一人心の中で「恋している」のだろう。

表II-11は「あなたが片思いしていることを知っている人」をたずねたものである。男子では「同級生」(61%)、「部活動の仲間」(10%)、女子では「同級生」(91%)、「部活動の仲間」(32%)、「先輩」(11%)、「きょうだい」(17%)、「お母さん」(17%)と、相手に交際を申し込まないまでも、いろいろな人と片思いの人について話題にしている様子が見えよう。また、中学生の女子にとっての母親は、第I章の悩みの相談相手とともに比較的に性的な問題をも話せる相手であるようだ。

次に、「片思いの相手とどんな交際をしたいか」たずねた結果が図II-11である。「つきあっている相手がいる」と同じ項目をたずねた。「電話で話をする」「いつもその子の写真を持っている」「バレンタインデーのプレゼント」「誕生日のプレゼント」「グループで遊びに行く」などのプラトニックな交際は女子のほうが多く、「手をつないで歩く」(男子 49%、女子 43%)、「その子の家に行って2人きりでおしゃべりをする」(男子 49%、女子 41%)、「キスをする」(男子 48%、女子 33%)と直接的な接触体験では、男女差が比較的小さいようである。しかも、全体に「つきあってみたい交際のしかた」に高い数値を示しているのをみると、「心の中に思う相手」とさまざまな交際を想像している中学生の姿がうかがえる。

(表II-8) 片思いの相手がいるか×成績

(%)

	上	中の上	中	中の下 下
男子	48.0	42.9	38.0	36.1
女子	65.2	64.8	61.3	67.4

「はい(片思いの相手がいる)」の割合

(表II-9) 片思いの相手がいるか×学年

(%)

	2年	3年
男子	33.7	37.8
女子	64.7	52.6

「はい(片思いの相手がいる)」の割合

(表II-10) 片思いの対象

(%)

	男子	女子
同級生	93.0	77.8
先輩	4.3	18.3
友だちのきょうだい	1.3	0.6
塾の友だち	4.5	3.7
部活動の仲間	2.1	3.2
社会人	2.7	5.0
その他	6.4	5.8

(図II-9) 相手は「好きだ」ということを知っているか

(%)

	とてもよく 知っている	なんとなく 知っているだろう	たぶん 知らないだろう	ぜんぜん 知らないだろう	わからない
男子	8.8	25.1	21.2	26.6	18.3
女子	20.9	32.9	16.7	19.5	10.0

(図II-10) その子に「つきあってほしい」と言うつもりか

(%)

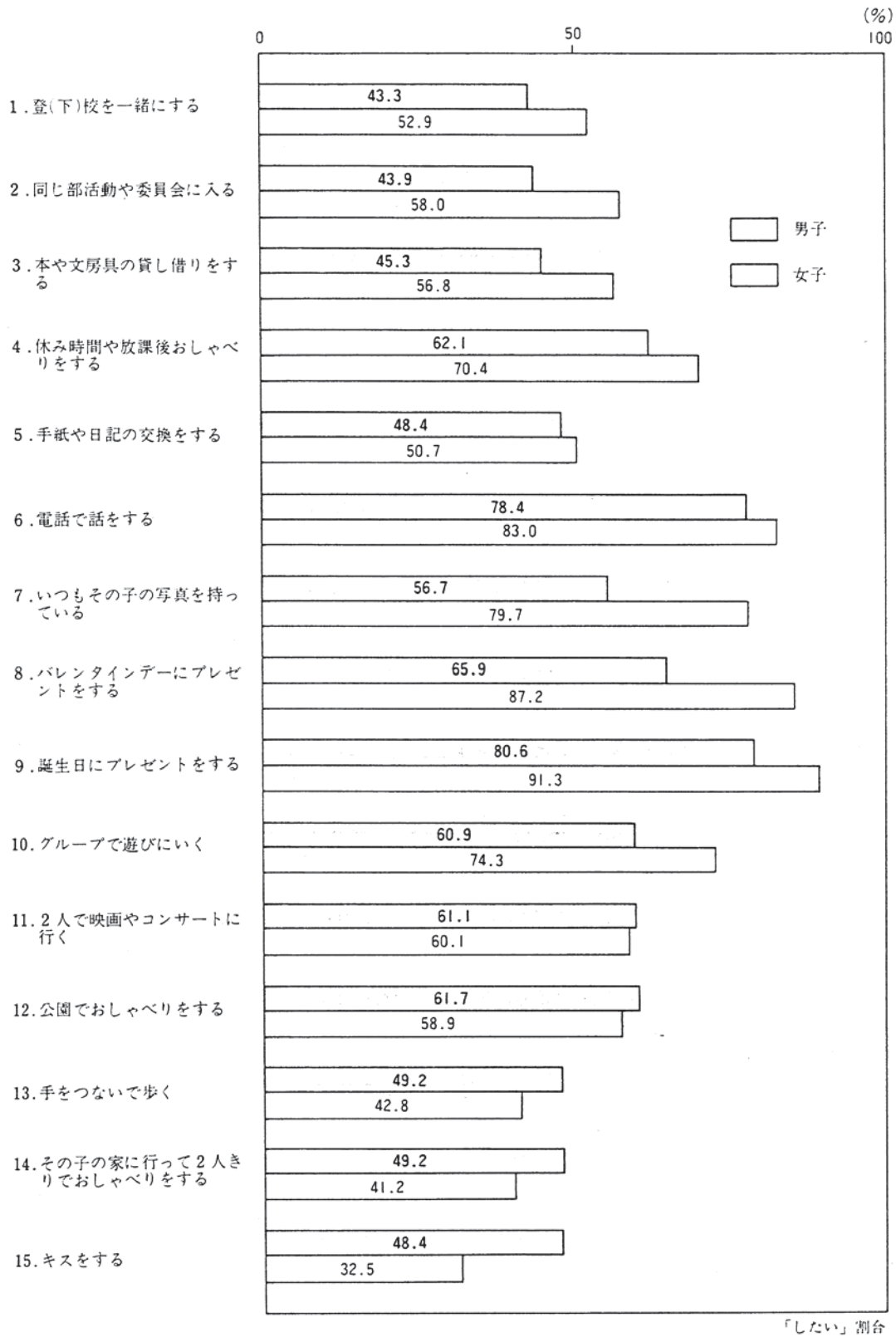
	はい	いいえ
男子	49.6	50.4
女子	27.7	72.3

(表II-11) 「片思いをしている」ことを知っている人

(%)

	男子	女子
同級生	60.7	90.6
部活動の仲間	10.2	31.7
先輩	2.7	11.4
きょうだい	4.8	16.7
お母さん	3.7	16.8
お父さん	2.1	4.4
学校の先生	1.9	5.6
塾の先生	1.3	2.5
その他	22.5	6.7

(図II-11) 片思いの相手としたい交際のしかた





### 3. 異性との出会いへの期待

さて、両思いの相手も、片思いの人もない中学生たちの異性への関心はどのようなものか。図II-12によれば、「近いうちに相手がほしい」と思っている中学生は、男子34%、女子42%いる。また表II-12によると、男子は成績のよい者(46%)、女子はふつうの者(45%)に相手を求めている割合が高い。

では、彼らはいつ頃になったら「つきあう相手」がほしいのだろうか。表II-13でみる

と、男子では16歳(39%)、17歳(21%)、女子では16歳(43%)、15歳(22%)、17歳(19%)。この年齢は高校1・2年の頃であり、中学生の中に「異性との交際は高校生になってから」との認識ができてきているように思える。

表II-14は、その時の対象をたずたものである。男子では「同級生」(78%)、「高校生」(23%)、「年下の子」(15%)、女子では「同級生」

(図II-12) つきあう相手が近いうちにほしいか  
(両思い、片思いをしていない者の場合)



(表II-12) つきあう相手が近いうちにほしいか×成績 (%)

	上	中の上	中	中の下 下
男子	46.1	42.3	30.3	29.1
女子	34.6	41.6	45.1	42.8

「はい(近いうちにほしい)」の割合

(83%)、「高校生」(46%)となっている。この「同級生」「高校生」とは表II-13からみると同じような意味に解釈でき、中学生のつきあっている相手が主に中学生であったように、高校生になったときもやはり同世代の者を相手として求めていることがわかる。

そうした場合、彼らはどのような交際を望んでいるのか。図II-13によれば、プラトニックなつきあいを中心だが、女子のほうが交際には積極的である。しかも「キスをする」こと

を望んでいる男子は47%、女子は35%、「その子の家に行って2人きりでおしゃべりをする」は男子52%、女子49%、「手をつないで歩く」の男子44%、女子54%という数値は、高校生が「現在つきあっている相手」として直接的な接触体験の数値(附表)へと到達する日の近いことを暗示し、そのレディネスの整った中で、中学生が日々過ごしているともいえよう。

(表II-13) つきあう相手のほしい時期

(%)

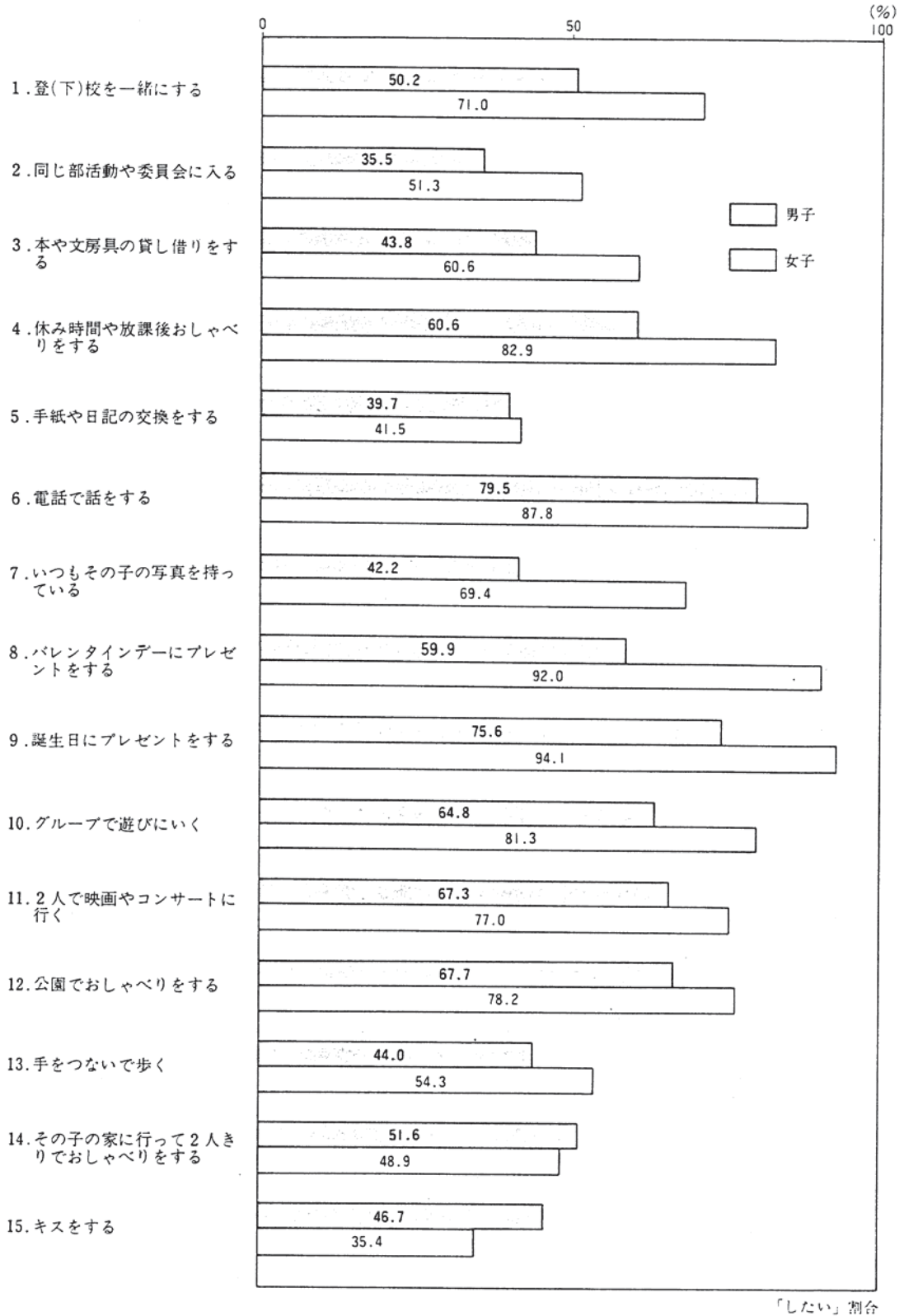
	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳	22歳
男子	0.0	4.9	16.0	39.2	21.4	13.1	1.5	3.9	0.0
女子	1.6	6.6	21.9	42.6	19.1	5.5	1.1	1.1	0.5
	中学生			高校生			大学生(社会人)		

(表II-14) どんな相手とつきあってみたいか

(%)

	男子	女子
同級生	78.4	83.0
高校生	22.5	45.5
年下の子	15.0	4.0
大学生	6.6	5.7
社会人	8.5	5.7
その他	7.0	4.0

(図II-13) つきあう相手ができたら、したい交際のしかた



(付表) 交際している異性との接触体験 (高校生)

——直接的接触体験——

(%)

	男子	女子
キス	53.3	42.9
ベッティング	39.1	33.3
性的な関係	44.4	30.2

「している」割合